

PHD LETTER

116

2011.3

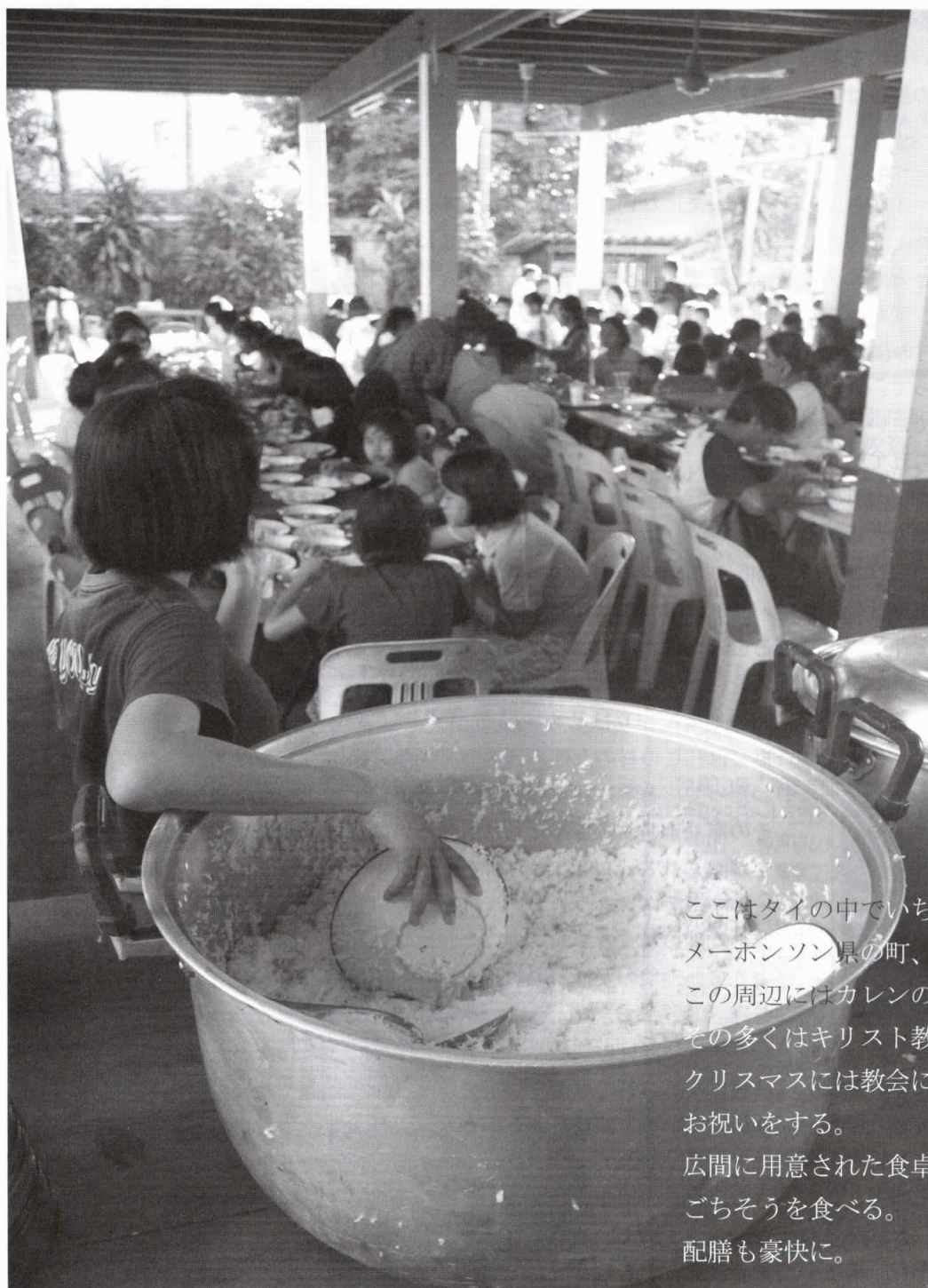
PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- タイ・スタディツアー報告
- 28期研修生レポート
- 国内研修生の1年をふりかえって
- ”研修生と学ぶ”国内ツアーin 水俣報告

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail: info@phd-kobe.org
URL: <http://www.phd-kob.org>
定価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688

PHD協会は特定公益増進法人の認定を受けています。



ここはタイの中でいちばん北にある
メーホンソン県の町、メーサリアン。
この周辺にはカレンの人たちが多く住む。
その多くはキリスト教徒で
クリスマスには教会に集って
お祝いをする。
広間に用意された食卓で何百人もが
ごちそうを食べる。
配膳も豪快に。

東西南北
問題解決
取組日記

変わる村

タイ北部、チェンマイ県とメーホンソン県に生活するカレンの人々とのやりとりが始まったのが1985年。もう25年のおつきあいになる。招いた研修生は17人となった。毎年暮れに、この地域に帰った研修生を訪ねているが、村をとりまく環境、村の生活が変化をしているのを感じる。とくにここ数年の変化の度合は大きい。

それを強く感じたのはムシキーという村の様子だ。そこはチェンマイから山道を車で5、6時間、北に走ったところにある。道が少しずつよくなるとともに、電気も入り、雑貨屋もできて、変わってきてはいたが、2年後にこの村の隣に新しい郡役所ができることになって、大きく変化しようとしている。すでにいくつかの役所の建物が建てはじめられており、町からそこに至る道がムシキーの村のまん中を通るため、行きかう車の台数が増えている。また周辺の土地の値段が急騰しているという。他にも携帯電話の普及ぶり、建築資材のブロックを作る作業所が道をはさんで2ヶ所できていたこと、家の新築が目立つこと等々、ある意味活気を感じた。村人に尋ねると、今までは



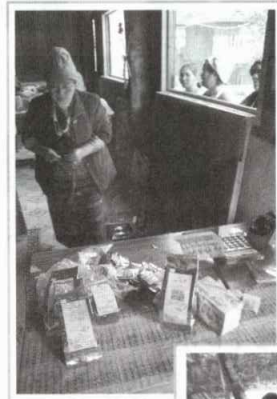
周囲の山の木を自分の家を建てる分として切るのは、かまわなかったが、郡役所稼働以降は、それができなくなるという。そんな事情で村のあちこちに新築中の家が見られるのだろう。今でも商売として切ることは許されておらず、それがつかると処罰されるようだ。ある村人はトラックで運んでいるところを警察に見つかり、罰金を5万バツ払ったという。

日本円に置きかえれば14万円、日本の感覚なら100万円ぐらいだろうか。

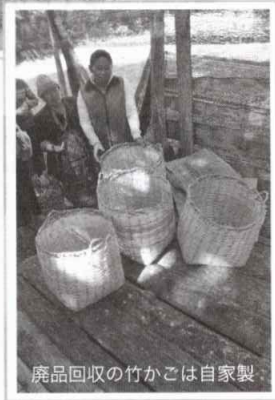
これまで行政の手があまり届かず、いいも悪いも、昔からこの地に住んでいた人たちのやり方でやってこれたことが、今後はそうはいかなくなる。この転換期にどう対処するかで、村人のあいだに格差が生まれそうな気がする。土地の売買やブロックの商売のように新しい仕事であてるとかもそのひとつだ。これまではお金を得る方法といえば、地道な農業か町への出稼ぎであったものが、それ以外にも機会が生まれそうな気配を感じる。食べるものをまず作り、着るものを自ら織り、村の中で助け合って暮らしてきた形態が変わるかもしれない。新しい商売の機会をとらえ、うまく対応することで、これまででない経済的豊かさを手にすることができるかもしれない。そこには、これまでのような村のみんながだいたい同じくらいの生活でという形が変わっていく気がする。

どう対応するか

そういった変化がいいことだけをもたらすのかの判断は難しいところだ。PHDのこの地域の協力相手であるカレンバプテスト会議も、個人的な商売が広がることだけが道ではなからうと、協同購入を柱とする協同組合の店をその活動範囲の地域に作りはじめている。またPHD協会は、この村の女性が織る布を長年にわたって、日本に紹介してきているが、その織り手のお母さんたちにも新しい動きが見られる。PHDの協力相手はムシキーの中のティメクラーというひとつの集落の女性の集まりであるが、今回はそれより広い地域の女性が参加するとりくみをおこなうことができた。そこでは布だけでなく、天然素材の装飾品や工芸品、さらに村にあるお茶の木からお茶を作り、売り始めている。茶葉を蒸してもみ、天日に干して、袋詰め、ティーバッグもある。さらに村での消費活動がさかんになることから生まれている廃棄物を、まとめて業者に買ってもらうための回収場所もできていた。金属類、ペットボトル、紙などの区別があった。



袋詰めされたお茶



廃品回収の竹かごは自家製

かつては自給していた衣類も、既製服が村にも入りこむことで買うものとなり、布を織る技術が若い世代に継がれなくなりつつあるが、この地域は、家庭だけでなく、教会の場を使って、若い娘さんたちに引き継いでもらおうとしている。ただ単に収入を増やすということを目的とするのではなく、村の伝統を大切にすることを考えている。研修生たちが日本の社会のありようから学んでもらったいくつかのことを生かしてくれればうれしい。

周囲の流れにあわせ、お金が必要となる生活を受入れ、そのために稼ぐことに精力を注ぐ道を選ぶのか。生きていくことの必要に何が大切かを考え、できるだけ直接手に入れ、足りないものは交換したり、分け合って、お金に頼ることを少なくする生き方をめざすのか。お金にふりまわされるのか、使いこなすのか。お金をどうつきあっていくのか。カレンの人々の今後だけでなく、いくつもの社会問題や社会矛盾を抱える日本の私たちの生き方を重ねあわせ、双方がそれぞれの場できりかえることが必要なのだと思う。

PHDの働きは他への一方的な支援ではなく、いつも自分のありようにはね返るものだと、この旅の道中あらためて感じた。

総主事代行 藤野達也



織りと糸張りを
体験して感じた
こと

スタディーツアーに参加し、実際に村のお母さんに会ってきました。メーサリアン村で、ブンシーさん(00年度研修生)のお母さんに布の織り方を見せてもらいました。腰のベルトで体勢を整えて織っていきます。とても複雑で、力加減が少し変わるだけで布の端がガタガタになりました。この時に、少しガタガタな端の商品があることに納得しました。実際に縦糸を張るのをやらせてもらいましたが、複雑極まりなく、途中で頭の中がこんがらがってしまいました。人一人分の幅の布を作るのに縦糸1000本くらい使い、その縦糸を準備するのに2時間くらいかか



ブンシーさんとお母さんに糸の張り方を
教えてもらいました

るそうです。きっと私が作ったら一日たっても終わらないと思います。村で布織りを請負うと1日分30バツだそうですが、外で1日働いたら130バツの日当。だから、若い子たちはやらなくなってきていると聞きました。私は、伝統をなくしてほしくない。担い手がなくなってほしくない、と切に思います。でも、私は日本で便利な生活を送っている身ですから、そんな軽々しく言えないとも思いました。

ムシキーの村では布織りをやらせてもらいました。二段になっている縦糸の間に織りこんでいくのですが、それも真上からではどこが縦糸の間か見えないし、横から見たら布がよれてしまうので、てんやわんやになってしまいました。私が織ったところはガタガタになってしまって、お母さんにほんと申し訳なかったです。腰のベルトのせいで、腰も痛いし腹筋も痛くなりました。実際に体験してみて、本当に大変なお母さんたちはすごいと再認識しました。むしろ「すごい」という言葉では済



私がしたのは売り物にならない?
ましてはいけない気さえました。

日本で、カレンの布を何も知らないで、こんなのがいい、こうしたいいい、と言いながら作業をしていた自分が恥ずかしくなりました。私は、布を織ることはできません。お母さんたちは、販売ルートを見つけることが難しいです。

私が、村のお母さんにできることは、少しでも多くの人にカレンの織物のこと、村のお母さんのことを知ってもらい、販売ルートを作ることなのではないかなと感じました。初めて布を知る人に、一回でたくさんの方が分かるように、伝えていきたいと思います。そして、今回の旅で出会ったすべての人に感謝したいです。

佐藤みずほ(佛科大学3年)



タイ・スタディーツアー報告

~村の伝統について
考えた

国内研修生として、カレンの布やネパールの編物の販売、ソディのミーティングを担当しました。その関係で、この年末年始にカレンの布の仕入れも兼ねたタイへのスタディーツアーに参加させていただきました。タイの北部に住んでいる山岳民族、カレンの村にお邪魔しました。メーサリアンとムシキーという山の村。その村にあるお母さんたちの布のグループから買い付けをするわけですが、メーサリアンでは新商品が多かった事に驚きました。メーサリアンのグループは少し元気がないと聞いていたからです。これは研修生ブンシーさんの旦那さんが働き先から村に戻って来て、ブンシーさんが布の活

動に力を入れられるようになったことが大きいと思います。ブンシーさんの活躍で、もっと活発になるとよいと思います。

ムシキーでは布の活動をしているグループとは別に、他の集落の女性を巻き込んだグループが新しく出来ていました。どちらのグループも布のグループと同じように、利益の一部は村のために使います。自分のことだけを考えているわけではない。だからこそ活動を応援したくなります。お母さんたちは新しくジュースの加工も始めたいと言っていました。

ムシキーの村には新しく郡庁ができます。人の流れが変わっていくことも考えられます。村はこれからどうなっていくのでしょうか?

昔友達に聞かれた事があります。伝統は守る必要があるのか?と。その時の僕は、消えていく伝統ならば消えて

しまってもよいのではないかと思います。でも今は何だか違うような気がします。何がどう違うのか、はっきりとは分からないけれど、それは違うと僕の中で何かが叫びます。カレンの人たちの布を織る伝統は消えつつあります。そのことを彼女たちはどう考えるのでしょうか?そして、日本に住んでいる僕たちは。

心の声に耳を澄ませて、考えを深めていきたいです。そして、いつかは答えをだして、何かできる自分になれるように。 鶴谷賢彦(国内研修生)



注文品以外にも、新しい製品をつくって
いたムシキーのお母さんたち

28期生研修生レポート

【敬称略】

ミンクマリさん (ネパール)



国内研修生と食品加工について学びました (出石市)

10月～3月の研修

10/18～20 山香園・河南英幸 (きのこ/兵庫県三田市) 滞在：円谷豊子
 10/22～28 水野直司会計事務所 (会計/大阪府豊中市) 11/2～5 東雲産業高等学校 (野菜/篠山市) 滞在：山岸永子
 11/26～12/7 想念寺・渡辺観永 (保育・応急手当/名古屋市) 12/13～17 寺田まさふみ (農産加工/兵庫県出石市)



会計指導の水野さん(右)はネパールツアー参加者

何が一番勉強になりましたか？

日本は「たくさん食べよう」と言われて「いただきます」を言わなければならない。そのことがとても新鮮で、そして「いただきます」は「ごちそうさまでした」ということと同じで、感謝の気持ちを伝えることなんだと気づきました。

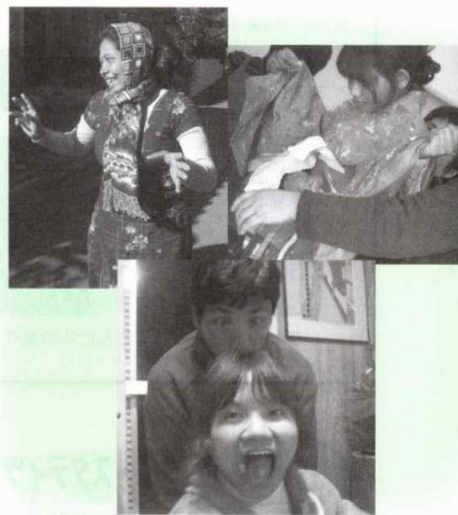
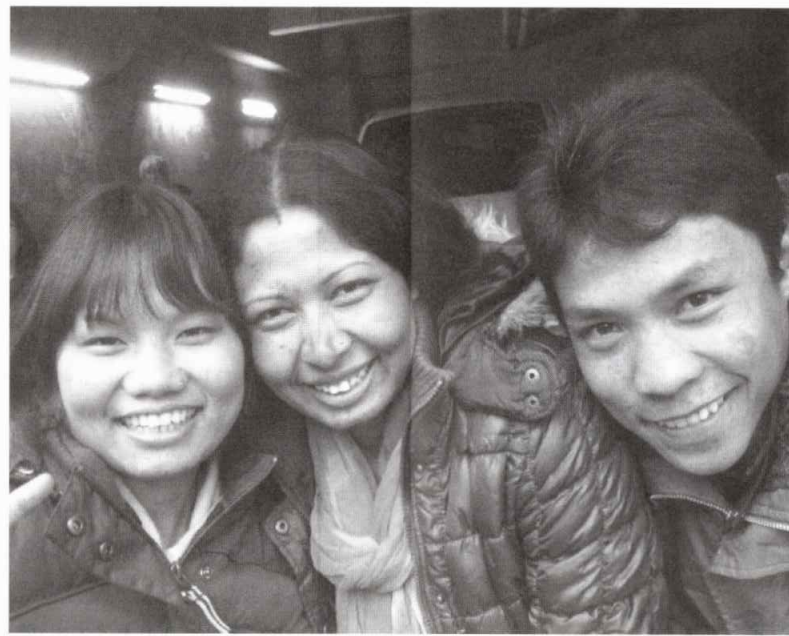
日本の社会から学んだことは？

日本の社会が「みんなの幸せ」を大切にしていること。みんなの幸せを大切にしていることが、日本社会の大きな特徴だと感じました。

村に帰ってからの計画は？

帰国後、村の学校で英語を教えること。また、村の発展のために何かできることをしたいです。

1年間、お世話になりました。 ありがとうございました。



10月～3月の共通研修

10/14・11/25 なでしこ歯科 (口腔衛生研修/神戸市) 12/21～22 コープこうべ (協同組合研修/兵庫県三木市) 12/22～23 旅路の里 (釜ヶ崎の歴史や現状/大阪市) 1/22 カマル・フィヤル (ファシリテーション研修/兵庫県伊丹市) 1/24・26 コープこうべ (協同組合研修/神戸市) 1/28 AMネット (水道水研修/大阪市) 1/30・2/7・12 研修報告 (リーダーシップ研修/篠山市、養父市、三木市) 2/1～2 淡路島モンキーセンター (残留農薬の弊害について/兵庫県洲本市) 2/10 山香園・河南英幸 (きのこ/三田市) 2/21～23 PHD協会 (ファシリテーション研修/神戸市) 3/5 帰国報告会



淡路島モンキーセンターで延原所長からお話をきく

ウルミラさん (ネパール)

10月～3月の研修

10/22～29 三木市総合福祉健康センター (栄養/兵庫県三木市) 滞在：前田節子、衣巻正子
 11/1～6 丹南福祉健康センター (保健衛生/篠山市) 滞在：上田和夫
 11/30～12/7 産婆オフィスルフィ・古賀直子 (助産/岡山市) 12/13～18 若宮病院 (助産/神戸市) 滞在：小田桐一良



ベテラン指導者寒者さんに教わりました (三木市)

何が一番勉強になりましたか？

日本の社会が「みんなの幸せ」を大切にしていること。みんなの幸せを大切にしていることが、日本社会の大きな特徴だと感じました。

村に帰ってからの計画は？

帰国後、村の学校で英語を教えること。また、村の発展のために何かできることをしたいです。

インドラさん (インドネシア)

10月～3月の研修

10/4～13 橋本慎司 (養鶏・野菜/兵庫県丹波市) 10/21～11/6 山香園・河南英幸 (きのこ/三田市) 滞在：円谷豊子
 11/30～12/3 中野宗嗣 (野菜・酪農/丹波市) 12/13 ステップハウス (障害者福祉/高砂市) 滞在：神吉道子



「シイタケの勉強いいです。」

何が一番勉強になりましたか？

日本の社会が「みんなの幸せ」を大切にしていること。みんなの幸せを大切にしていることが、日本社会の大きな特徴だと感じました。

村に帰ってからの計画は？

帰国後、村の学校で英語を教えること。また、村の発展のために何かできることをしたいです。

1年をふりかえって

研修担当 坂西卓郎

◆研修生は村の人！

研修担当の一年をふりかえってと言われ、はたと困った。色々ありすぎて書ききれない。悩んだ結果、PHDの研修生は村の人だ、という当たり前の前提に行き着いた。別の仕事でJICAの研修員や他のNGOの研修生などと一緒にいることがあるが、同じアジアの人でも都会のエリートが多い。そういった人達と比べるとPHDの研修生は本当にべたな村の人である。

◆研修生から教わる

今年の3人は豊かな生活体験と安定した情緒があり、便利な生活を享受している私たちにはない感性がある。研修担当として日々接する中で、特に人間関係一すぐにイライラしない、きちんと人に向き合うとかーについては学ぶことが多かった。研修生と日本で触れ合えることは貴重だと改めて思う。



◆PHD流ソーシャルワーカーの育成を目指して

同時に課題もある。職業ワーカーではないので、研修の成果が見えにくい。また農業などの専門研修はPHDに経験があるが、村で働きかける役割を担ってもらうための研修は確立されていない。既存の研修や手法はどちらかというところ、村の人に対するものはない。村の人というPHDだけの独自性を生かすためにも、この一年の経験をともに村で生活しながら村の人に働きかけるというPHD流ソーシャルワーカーの育成を目指し、そのための研修を研修生と一緒に探していきたい。



松田洋子さん

◆研修生から学んだことの多さ

海外の研修生と共に学び、過ごした1年間は、私にとってかけがえのない時間でした。

彼らが来日し、日本語を勉強していた頃は、まだ彼らの日本語能力も拙く、お互いに緊張していました。何を話したらいいかわからず、話題に困ったときもありました。

6月。農業や保健衛生の研修が始まり、私も何度か同行しました。寝食を

共にし、一緒に農作業をする中で、仲良くなれました。ミンクマリさんとウルミラさんが、夜、布団に入りながら、日本語で、村で何をしたいか、今後どういった研修を受けたいかなどを熱く語っていたときには、とても胸が熱くなりました。私が勉強したいと思ったとき、自分のキャリアや好奇心のためはあっても、地域の人たちのためという意識があったらどうかと、衝撃を受けたからです。

出会った頃は、日本人に比べ、学問や職業の選択の幅が狭い彼らは、かわいそうだなあと感じていました。しかし、次第に、その認識は間違っている

な、自分の食べるものを自分で作れる、鶏も捌ける、子供やお年寄りとの接し方が上手、人の痛みに敏感など、本当の生きる力、豊かな心をもっている彼らに日々心を動かされ、憧れるようになりました。彼らのおかげで、日本にいながらにして、国内のことを客観的にみることもできました。

農は生きることそのものであり、農に触れることで人が元気になるということを自ら体感しました。なので、今後は、仕事が見つからず働く意欲を失っている人や、若者と農業を繋ぐ活動を、福祉や国際協力の分野でしたいと思っています。

国内研修生の1年をふりかえって



14期生ふたりのそれぞれのこれからはー。



鶴谷賢彦さん

◆国際協力をおして国内問題に気づいた

海外で植林をしたいと思い、大学で森林科学を学び、青年海外協力隊でモザンビークで植林活動をするものの、病気になり途中で帰国することになりました。帰国後、違う仕事をしていましたが、国際協力のことが頭から離れず、PHD協会の門をたたいたのが、去年の4月でした。それから早くも1年近くが経ち、国内研修生としての活動をもうすぐ終えようとしています。こ

の1年、たくさんの方にお世話になりました。あまり鋭い方ではない僕ですが、それでもいくつか学んだことはあります。人としてのたくましさって何だろうとか、共に生きることでどんなことだろうとか。ボランティアの方々、研修指導者の方々、PHDを支えて下さっている方々、そういった人たちからもたくさんの事を教えていただきましたが、何よりも海外からの研修生には本当にたくさんのことを教えてもらいました。自分の周りの事を頑張ろうとする大切さなんかを。

森林科学の勉強をしている時に、日本の林業が問題を持っていることは凄く良く分かっていました。それでも、

日本の林業を何とかしてやろうと思わなかったのは、逃げていたから。しんどいことが分かり切っていたから。PHD協会で国際協力の事を学ぶつもりでしたが、目につくことは国内の問題ばかり。農業の事もその一つです。

最近、日本国内で頑張ることが国際協力になるのかな、などと考えていて、4月からは農業の修行をさせてもらいます。大学に2回行ったり、モザンビークという遠い国に行ったり、たくさんの人に迷惑をかけてきましたが、これからは、親とか兄弟とか友達とか、自分の周りの人をもっと大事にしていきたいです。いろいろ教えて下さったみなさんへ、ありがとうございました。

”研修生と学ぶ”国内ツアーin 水俣レポート

2011年1月8日～10日

おかねだけしあわせじゃないということをかながえました。いつかネパールもべんりになるところじょうがふえてそうなるじゃないか、わたしたちまいとしはたけとたんぼにまいているかがくひりょうもだいじょうぶかな。わたしはべんりさより、しぜんのほうがだいじだとおもいました。(ミンクマリ)



水俣の街を一望する山の中腹から

ライフワークの有機農業についても、水俣病の原因でもある化学肥料を使うのではなく、農業の原点である自然の仕組みを利用した農業を使わない自然にある肥料を利用した農業をこれからも自信と誇りを持って、続けていきたい。

(円谷豊子・研修指導者)



せっけん歯磨き粉と合成洗剤の歯磨き粉の実験

研修生のシンプルな問いが私の”知ったかぶり” ”固定概念”という皮を剥がし、理解をより深いものにしてくれました。

(井上理子・大学職員)

ネパールでもきたないみずをかわにながしています。そのきたないみずをたんぼにつかっています。そこのやさいとこめをつくってたべます。わたしたちもびょうきになっているかもとおもいました。むらのひとびとににみなまたのことおしえます。(ウルミラ)

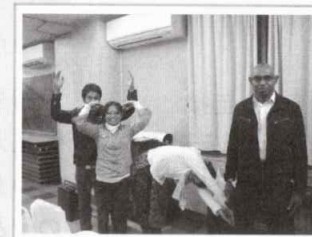
みなまたでべんきょうしたことインドネシアにかえて、しらべたいです。たぶんインドネシアにもみなまたびょうみたいなことあるとおもいます。(インドラ)

東 日本研修旅行(2010年11月12日～19日)

- 長野県 塩尻めぐみ幼稚園
日本キリスト教団松本教会
須澤さんのトマト水耕栽培
- 山梨県 山梨YMCA
- 神奈川 山崎・谷戸の会
もみの木クラブ
- 東京都 ローターリー米山記念奨学会
全日本自動車産業騒動組合総連合会
生協総合研究所
アーユス・勝楽寺
恵泉女学園大学
- 静岡 東海大学
- 愛知 南山短期大学
- 岐阜 覚成寺
- 愛知 小牧幼稚園
- 岐阜 国際ソロプチミストかかみ野
日本キリスト教団中濃教会



南山短期大学交流会



山梨YMCAでアジャンタさん(88年度研修生)に会えました

西 日本研修旅行(2011年1月6日～18日)

- 鹿児島 かごしま有機生産組合
- 熊本 ガイアみなまた
水俣病センター相思社
熊本YMCA
菊池恵楓園
- 福岡 福音伝道所
祝町小学校～旭ヶ丘会館
- 山口 梅光学院大学・梅光女学院高等学校
- 広島 平和学習
灰塚コミュニティセンター
共生庵
ピースウィンズジャパン尾道事務所
- 岡山 高木宅交流会
御津教会



福岡県福岡市の方々と



一人に広島平和記念資料館を案内してもらいました



- 10月31日 兵庫県第24回加古川ガールスカウト交流会
- 10月25日 のぞみ保育園交流会
- 11月6日 鹿児島オーガニックフェスタバザー
- 11月7日 三木かなもの祭りバザー
- 11月13日 コープボランティア報告会バザー
- 11月21日 篠山ナマステ会10周年行事
- 11月25日、26日、29日 明石城西高等学校
- 11月29日 梶山女学園小学校
- 12月2日 名古屋大須ロータリークラブ
- 12月3日 龍谷大学ボランティア・NPO活動センター
トヨタ労働組合
- 12月3日 PHDのつどい第2回「地域に根ざしたPHD運動」
- 12月8日 ダイハツ労働組合
- 12月10日 高砂市立阿弥陀小学校交流会
- 12月23日～1月2日 タイ・スタディツアー
- 1月5日 神戸市シルバーカレッジ国際友の会新年会
- 1月19日 兵庫県立国際高校
- 1月24日 コープサポート活動センター姫路交流会
- 1月28日 「地球の未来に、いっしょにかみ。」キャンペーン
トークイベント「水からつながる日本とネパール」
- 1月29日 タイ・スタディツアー報告会
- 1月30日 篠山ナマステ会市民講座
- 2月1日 南あわじ市立灘小学校交流会
- 2月3日 神戸市シルバーカレッジ国際友の会交流会
- 2月4日 備前ロータリークラブ
- 2月5日、6日 ワンワールドフェスティバル
- 2月7日 但馬PHD交流会
- 2月12日 加東市連合婦人会研修報告会
- 2月13日 アーユス関西 薬師院交流会
- 2月15日 但馬農業高校交流会
- 2月19日 国内研修生募集説明会
- 2月24日 国際ソロプチミスト姫路西バザー
- 2月28日 研修指導者会

第29期研修生 4月14日に来日予定です



パッサン・ラマ
ネパール・20歳・女性

農業、保健衛生、
地域組織化



ラメシュ・カジ・シュレスタ
ネパール・26歳・男性

農業、保健衛生、
地域組織化



エリザ・フィトリ
インドネシア・20歳・女性

洋裁、保健衛生、
地域組織化

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2010年	10月	41件	¥2,645,500
	11月	217件	¥2,382,985
	12月	409件	¥3,072,076
2011年	1月	120件	¥1,327,912
		787件	¥9,428,473

上記の通り、皆様より多くの会費および年末募金によるご浄財を頂きました。心より感謝申し上げます。皆様のご支援により、研修活動をより活性化していけるよう努めていきたいと思っております。引き続きのご支援、お力添えをお願いします。

◆新しい自転車をご寄贈頂きました！

茨城県の山田章子さんから、きれいな自転車を頂きました。大変乗りやすく、おしゃれです。ありがとうございました。



PHDと出会って、2年になります。お手伝いと言う程の事ができているかどうか、考えだすとときがないので、とりあえずフットワークを軽くするよう心がけています。職員の皆さんはもとより、研修生、ボランティアの方々、本当に色んな出会いがあるな、と感じています。ネパール、インドネシア等普段の私の生活からはとても遠い国で生まれた人と、PHDを通して接する機会を持つこ

◆第15期国内研修生募集

2011年度も春から開始します。募集要項をお送り致しますのでお問い合わせ下さい。

内容：PHDの事業を通じた実地研修

- 1) 海外研修生の研修に同行し、学ぶ
- 2) 国際理解・開発教育等国内に向けた啓発活動
- 3) 公益法人における組織運営

対象：日本国内居住者(日本語で研修を行います)、将来、開発協力・教育・福祉等の分野で働くことを志し、当事務所に通える方。

研修期間：4月より上限1年間
(週3～5日) 応相談

時間：原則9時～18時

支給経費：交通費

選考：書類審査後、筆記・面接

◆日本語復習ボランティア募集します

新研修生の日本語復習ボランティアを募集します。

期間：4月中旬～6月上旬

時間：月曜～金曜は16時～18時、
土曜は午前中。

場所：PHD協会事務所

とになったわけですから。不思議だなあ、縁だなあ、と。

「世の中の事は一見偶然のようで、実はすべて必然で起きている」と何かで読んだことがあります。それ以来ずっと、私の考え方の幹になっている言葉です。来日した研修生が沢山の候補者の中から選ばれて来た事、私が沢山ある国際協力ボランティアの中からPHDを紹介された事、全て何かしら意味がある事なんだろうと思います。だから自然とフットワークも軽くなるわけです。

(よっしー)

〇月×日のPHD協会

—この冬のできごと—

職員 佐々木 いつもは、外での飲み明かしの年越し、年明けが、今回は親兄弟揃って。おせち料理でヘルシーな食生活。心なしかスリムに。

職員 藤野 毎年恒例暮れの北タイ。村での滞在の不思議は、夜中に何度も起きること。そんなに水分取ってでもなく、そんなに寒くもないのに。

研修生ウルミラ 研修先の病院に出産間近かと同じ国の妊婦さんが。慣れない病院、不自由な言葉で不安なところをお手伝い。先生からも喜ばれる。

職員 坂西 7ヵ月の第二子の性別が話題に。インドネシアではお母さんが果物たくさん食べたいと言うと女の子、ネパールではお尻の形で判断とか。

国内研修生 鶴谷 年末はタイのスタディツアーへ。トラックの荷台でこんがり日焼け。西日本研修旅行の行先で「日本語上手ねえ」と海外研修生待遇。

国内研修生 松田 西日本研修旅行で泊めていただく先はネパールのふたりといっしょ。普通の大きさの浴槽に3人つかって、究極の肌のふれあいを。

研修生ミンクマリ 下関の高校で日本の足元の問題について話したら、同い年の女子が涙を浮かべて聴き入り、その子とはいまはメール友だち。

職員 川原 休みのたびに部屋の大そうじ。合計20袋のモノを始末する。MD、ビデオテープ、服、靴、印刷物、あまりの量に消費生活の過剰さを反省。

研修生インドラ 日雇い労働者の町釜ヶ崎研修後に入った食堂で、いつも小食のウルミラさんに、残さないようにと指導する。研修効果絶大。

(独り言が多い順)

制作協力：菅原宗晋 増本一朗 吉田明希子
—再生紙を使用しています。